

会 議 録

第 1 4 回定例会

開会 平成 2 3 年 1 0 月 2 8 日

教育委員会会議録

1 開 会 平成23年10月28日 午後2時

2 閉 会 平成23年10月28日 午後3時06分

3 出席委員

委員長	西池 氏裕
委 員	佐藤 紘子
委 員	佐藤 盛仁
委 員	筒井 直典
委 員（教育長）	福家 清司

4 出席者

副 教 育 長	原内 司
教 育 次 長	真鍋 孝之
教 育 改 革 課 長	中村 章人
教 職 員 課 長	尾崎 好秋
生涯学習政策課副課長	谷川 善治
教育文化政策課長	湯浅 利彦
教育総務課副課長	美保 洋祐

[開 会]

委員長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

委員長 配布されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

委員長 会議録を承認する旨を告げる。

[教育長報告]

教育長 9月定例県議会における審議結果について報告する。

これについては、特に質疑等はなく、

委員長 報告を了承する旨を告げる。

[議 事]

委員長 議案第48号を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

委員長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《議案第47号 平成24年度公立高等学校生徒募集定員について》

委員長 説明を求める。

教育改革課長 生徒募集定員の総枠、学校・学科別生徒募集定員等を説明する。

〈質 疑〉

佐藤（盛）委員：公立高等学校（全日制）募集定員比較表（小学科別）について伺いたい。鳴門工業の募集停止に伴い、鳴門渦潮高校の募集定員を増やしたと説明があったが、科学技術高校の工業科も、鳴門工業の募集停止を考慮して15名増やしたのか。

教育改革課長：募集定員は、普通科や工業科の割合、地域の生徒数の増減も考慮して設定している。地域の生徒数の増減を、鳴門渦潮高校や鳴門高校の定員で考慮した。工業科全体の定員の減少を考慮し、科学技術高校の定員を設定したが、施設・設備の関係で15名の増とした。

委員長：全体的な傾向の話であるが、公立高等学校（全日制）入学定員による学科別構成比を見ると、募集定員は、平成20年度から平成24年度までで、315名減少している。この間に普通科の定員は、320名減少しており、募集定員の減少は、普通科定員の減少とほぼ一致している。普通科

の定員を、意識的に減少させているのか。

教育改革課長：9月の進学希望調査では、昨年度に比べ普通科の希望者は、176名減るとともに、職業科の希望者は34名増えており、そのあたりも考慮し、定員を設定した。

委員長：農業科の定員は、意識的に増やしたのか。

教育改革課長：農業科については、昨年度末に策定した「徳島県農業教育活性化プラン」に基づき、農業教育のより一層の活性化が図れるように、定員を設定した。

委員長：この状況を、普通科ばなれと言うのは時期尚早か。

教育改革課長：普通科ばなれというよりは、商業・工業科を含む職業科の希望者が増えたという感じがする。現時点では、普通科ばなれとまでは言い切れないと考える。

委員長	議案第47号を原案どおり決定してよいかを諮る。
各委員	異議なし。
委員長	議案第47号を原案どおり決定する旨を告げる。

《協議事項1	平成24年度徳島県立学校実習助手（農業）選考審査要綱について》
委員長	説明を求める。
教職員課長	実施理由、実施要領について説明する。

〈質 疑〉

委員長：徳島県立学校実習助手（農業）選考審査は公募なのか。またどのように公募するか。

教職員課長：10月末にホームページに公開するとともにマスコミに資料提供し、11月上旬に県報掲載し、OUR徳島にも掲載する予定である。

委員長：現在、実習助手は何名いるか。

教職員課長：正規は14名、期限付は8名、合計22名である。

委員長：今回の採用で実質増員になるのか。

教職員課長：教員定数は法的に決まっている。今回は退職者がでることと、退職後も来てくれていた方が高齢になり欠員が出ることになったための採用である。

委員長：実習助手の平均年齢はどれくらいか。

教職員課長：一部高齢の方がいるものの、全体としては40才前後だと思う。

委員長：農業の教員を増やしたいという思いがあるが、これで十分と考えているか、それとも十分ではないが法律で決まっているから仕方がないと考えているのか。

教職員課長：教職員の定数は決まっているが、その中で学校の実態に合わせて、校長の判断で教諭と実習助手の割り振りはできるので、そのかねあい弾力的にしてきている。

委員長：バランスも大事だが、徳島の特徴として農業を強化してほしいと考えている。

教職員課長：本県は、全体からいうと、普通科校より専門高校や小規模校に手厚くはなっている。

委員長：岡山県の高校を視察したが、何か光る学校というのは力のある先生がそろっている。徳島も強化するのであればそういうことも考慮してあげたいと思う。単に欠員があるから補充というのではなく、重要なところには手厚く力を注ぐということもお願いしたい。

委員長	協議事項 1 を議案第 49 号として付議してよいかを諮る。
各委員	異議なし。
委員長	議案第 49 号を原案どおり決定してよいかを諮る。
各委員	異議なし。
委員長	議案第 49 号を原案どおり決定する旨を告げる。

《報告事項 1 「平成 23 年度地域教育支援活動奨励表彰」被表彰者について》

委員長 報告を求める。

生涯学習政策課副課長 表彰の目的、表彰候補者等を報告する。

〈質 疑〉

佐藤（盛）委員：報告の中で 24 市町村のうち、6 市町村からの推薦ということであったが、本年度どのような働きかけを市町村に行ったのか。また、今後たくさん市町村から推薦を出してもらうためにどのように取り組んでいくのか。

生涯学習政策課副課長：本年度、第 1 回目の表彰ということで、市町村教育長会議や県立学校校長会などで事業概要を十分説明し、また、市町村にも直接依頼するなどの働きかけを行った。しかし、今回 6 市町村からの推薦に終わったのは、この表彰制度だけでなく、他の表彰においても市町村には温度差

があり、積極的な推薦をしていただいている市町村とそうでない市町村があるためと考える。また、この表彰制度についても、藍青賞などのように表彰の条件のハードルが高いと勘違いしている市町村もあり、この第1回の表彰の状況を広報することで、次年度はたくさんの市町村から推薦いただけるようにしていきたい。

佐藤（盛）委員：表彰状の交付は市町村から行うということであるが、それはどうしてか。

生涯学習政策課副課長：この表彰制度は、活動年数が短い、長いにかかわらず、地域で地道に活動してきた方に光を当て、その労を労い、さらに今後の活動を期待するという趣旨があるので、それを身近に知る推薦団体からの表彰交付が望ましいと考えた。

委員長：素晴らしい表彰制度であるのに、今回市町村からの推薦が6市町村に終わったのは残念である。先程、表彰状の交付が推薦団体からという話であったが、県教委から被表彰者を一括に表彰して、それを広報していけばもっとこの表彰制度を知ってもらえるのではないか。

生涯学習政策課副課長：今回、第1回ということで、さらに改善していく点はたくさんあると思う。表彰の趣旨は地域で地道に活動している方や団体に光をあて、地域でその活動を讃えるということではあるが、今の御意見について検討してみたい。

委員長 報告事項1を了承する旨を告げる。

[非公開]

《議案第48号 徳島県立埋蔵文化財総合センター指定管理者の指定について》

（非公開につき、議事の内容については省略）

[閉 会]

委員長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉 会 午後3時06分